

# 太平洋にレアアース鉱床

## 海底3500～6000メートル 陸上埋蔵量の800倍

東大グループ発見

ハイブリッド車のモーターやLED照明などに不可欠

レアアースを大量に含んだ海底泥の推定分布域(黒)



※加藤泰浩准教授提供の資料を基に作成

レアアース 地球上に分布する量が極めて少ない元素のグループで希土類とも呼ばれる。独特の磁氣的、光学的特性を持っていることから、DVDの記録層や液晶テレビの蛍光体などに用いられる。

底に大量に存在することを、東京大工学系研究科の加藤泰浩准教授らの研究グループが発見した。資源量は、陸上埋蔵量(約1億1000万ト)の800倍に及ぶと見積もられ、中国依存の供給事情や将来の枯渇などの懸念を抱えるレアアースの安定確保につながる成果として注目される。

成果は、4日の英科学誌ネイチャー・ジオサイエンス電子版に発表される。

グループでは、日本や米国が参加した国際深海掘削計画などで太平洋の広範囲で採取され、参加各国の研究機関に保管されている2000を超える海底堆積物の試料の組成を分析した。

その結果、陸上の鉱床に匹敵する高い濃度のレアアースを含んだ海底泥の鉱床

約240万平方キロにわたって鉱床が分布していると考えられる。約4平方キロの資源量で日本の年間供給量の1～2年分に相当する。

レアアースを巡っては、9割以上を中国1か国で生産しており、不安定な供給構造と、価格の高騰が問題となっている。加藤准教授は「効率的に回収する技術が確立できれば、陸上のレアアース資源を代替することが可能になるのではないかと話している。」

△採掘コストがカギ2面▽